

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和4年6月 日

鹿児島市長 下鶴 隆央 殿



提出者  
住 所 鹿児島市下伊敷1丁目53番16号  
氏 名 株式会社 江藤建設工業  
代表取締役 荒川 和彦  
電話番号 099-229-7500

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 江藤建設工業
事業場の所在地	鹿児島市下伊敷1丁目53番16号
計画期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	総合建設業
② 事業の規模	前年度の工事受注額 40億統括
③ 従業員数	98名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括責任者（取締役専務）— 工事部長— 安全環境課— 現場代理人

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和2年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙	
	排出量	32689 t	t
	（これまでに実施した取組） 資源物と廃棄物の選別		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙	
	排出量	18502 t	t
	（今後実施する予定の取組） 資源物と廃棄物の選別		

## 産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 木くず・廃プラ・紙くず・繊維くず・廃石膏ボード・コンクリートくず及びガラス・陶磁器くず手作業で選別 他の廃棄物と混合しないようにする。
② 計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 安定型最終処分の減少 混載ごみを減らす。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

## (第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物(特別管理産業廃棄物)処理計画書 廃棄物の種類が複数ある場合この表を使用してください

(お願い:2種類までは計画書に記載することができますが、集計の都合上、なるべくこの表をご使用ください)

別添内訳書

		がれき類	木くず	廃プラスチック類	金属くず	ガラ・コン	紙くず	汚泥	建設混合廃棄物	廃油	合計	
		数字(t)										
廃棄物の排出の抑制に関する事項												
①現状(前年度実績)	排出量【A】	25,344	5,230	361	1,000	1,165	9		579		32,689	
②計画(今年度目標)	排出量【B】	15,000	2,000	300	1	1,000	1		200		18,502	
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項												
①現状(前年度実績)	自ら再生利用を行った量【C】										0	
②計画(今年度目標)	自ら再生利用を行う量【D】										0	
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項												
①現状(前年度実績)	自ら熱回収を行った量【E】										0	
	自ら中間処理により減量する量【F】										0	
②計画(今年度目標)	自ら熱回収を行った量【G】										0	
	自ら中間処理により減量する量【H】										0	
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投棄処分に関する事項												
①現状(前年度実績)	自ら埋立処分を行った量【I】										0	
②計画(今年度目標)	自ら埋立処分を行う量【J】										0	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項												
①現状(前年度実績)	全処理委託量【K】	25,344	5,230	361	1	1,165	9		579		32,689	
	内訳 優良認定処理業者へ処理を委託した量【L】		5,230	361	1	1,165	9,000		579		7,345	
	内訳 再生処理業者へ処理を委託した量【M】	25,344									25,344	
	内訳 認定熱回収業者へ処理を委託した量【N】										0	
	内訳 認定以外の熱回収業者へ処理を委託した量【O】										0	
②計画(今年度目標)	全処理委託量【P】	15,000	2,000	300	1	1,000	1		200		18,502	
	内訳 優良認定処理業者へ処理を委託する量【Q】		180	80	6	1,000	1		200		1,467	
	内訳 再生利用業者へ委託する量【R】	15,000									15,000	
	内訳 認定熱回収業者へ処理を委託する量【S】										0	
	内訳 認定以外の熱回収業者へ処理を委託した量【T】										0	

※ガラ・コン=ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず(廃石膏ボードもガラ・コンの項目です)

※建設系の廃棄物で、品目ごとの仕分けが不可能な場合は、建設混合廃棄物として記入してください。